資料彼報

第 36 号

編　集　平成 28 年 3 月 31 日

発　行　高森町歴史民俗資料館
長野県下伊那郡高森町
下市田 2243
電話（0265）35-7083

印　刷　㈲　雨　宮　印　刷
電話（0265）22-6027



高森町歴史民俗資料館「時の駅」

富本銭（県宝）

目　次

○あいさつ …… 2
○平成27年度事業報告 …… 3
○資料館委員会等の活動記録 …… 4
○「時の駅」講座 …… 5〜6
○特別講演会「松岡氏の伝承とその素姓」…… 6
○平成27年度企画・特別展
●五月人形・東京木目込み人形展 …… 7
●矢沢遺跡発掘調査報告展 …… 7
●ミニ平和展 …… 8
●ひつじ満水から三百年 …… 8
●本学神社をつくった人たちの明治 …… 9
●ひな人形と美人画展 …… 9
●町民ギャラリー展 …… 10
○学校・地域との連携 …… 10
○親子体験教室 …… 11
○研究調査報告「本学神社を
つくった人々の明治」…… 12〜14
○平成27年度の記録 …… 14〜16
○平成27年度資料寄贈者 …… 16
○編集後記 …… 16

◉ごあいさつ

高森町長　熊　谷　元　尋



昨年おこなわれた国勢調査の結果が公表されました。高森町はこれまで人口が微増してきましたが、５年間で人口が 132 人減少しました。

飯田下伊那の中では、まだまだ恵まれていますが、これからも人口減少の傾向は続いていくことが予想されます。人口減少に歯止めをかけ、東京への一極集中を是正するために国をあげて地方創生の取り組みがおこなわれます。

人口を増やすために市町村ではあの手この手を考えていますが、単に人口だけを増やせば良い町になるというものでもありません。

飯田下伊那地域で人口が減少する要因のひとつに、高校を卒業する生徒の 80%が都会などに出て行き、その内の 40%しか故郷に帰って来ないことがあげられます。今年は御柱祭が町内で行われます。各地域に残る伝統芸能や文化を後世に伝えていくことは大切ですが、悩みは後継者不足です。

人口が減少することでさらに難しくなります。後継者を育成し地域に広がる伝統芸能や文化を継承していくことは、地方創生のひとつになるのではないでしょうか。そのためにも資料館が、生涯学習の拠点として果たす役割は重要です。 多くの方々に立ち寄ってもらうことができるような資料館になることを願っています。

教育長　光　沢　郁　夫



資料館は、郷土の歴史や文化を集積した貴重な学びの場です。27 年度も、看板事業である「時の駅講座」の開催や「特別展」の開設のほか、小中学生による「ふるさと学習」も継続して実践しています。

いま、大河ドラマでは「真田丸」が放映されていますが、次の大河ドラマには「おんな城主・直虎」が決定しています。松岡城址は、この直虎の許嫁であった亀之丞、のちの井伊直親が 12 年もの間、身を寄せたゆかりの地です。

まさに、松岡城址にとっては願ってもない宣伝チャンスであり、28 年度では、井伊家と松岡家との関係を探る講演会や特別企画展の開催などを予定しています。これを機に、松岡城址が広く知られ、由緒ある歴史的な観光スポットとして、まちの活性化につながることを期待しています。

このほかにも、知的関心を高める講座や趣向を凝らした数々の展示を計画しています。生涯学習の場として、また、ふるさと学習の場として、多くの皆様にご来場頂きたいと思います。

この一年間、お力添えを頂きました関係者の皆様に心から感謝を申し上げ、資料館報第 36 号に寄せる言葉とします。

資料館運営委員長　松　島　悦　男



本年度も各方面から多大なご支援を頂き利用者が増加した事に厚く御礼申し上げます。当館の主催する「時の駅講座」と「親子体験教室」を重点的に述べます。

時の駅講座①で酒井氏は「矢沢遺跡」が問題提起の多い貴重な縄文遺跡であると指摘した。講座②で松島氏は約 300 年前の「ひつじ満水」の現場見学で「知識は人から学ぶものでは無く自分で獲得するもの」と結んでいる。講座③で松上館長は本学神社を中心とした「世直し」の思想が確実に後世に確実に継承されて来た事実を語る。各講座が高森町の重要な歴史遺産・遺跡と位置づけ、平易な解説で大変に有意義なお話でした。各講師の皆様に深謝する次第です。

親子体験教室は①富本銭づくり、②勾玉づくり、③繭玉からの糸取りと飾り紐づくり、④縄文土器づくり等を夏休みに実施し、冬期に「小正月飾りと餅つき体験」の教室に大勢の参加を得て立派な飾りが完成しました。豊作と世の平安を祈願し年中行事の意義を一層深めたと思います。

近頃は益々便利さや経済優先の思想が強まり、先人の苦労や努力の尊さは軽視されがちです。「知識より知恵」が大切なんだと体験を通して学ぶこと、魂に訴える場面や環境を設定することが今こそ必要な時だと思います。

平成 27 年度 事業報告

館長　松 上 清 志



高森町歴史民俗資料館が設立されてから 36 年が過ぎました。本年度も、町内外の多くの方々に見学していただいたり、施設をご利用いただきました。町民の皆様の温かいご支援、ご指導に心から感謝申上げ、平成 27 年度の事業報告をさせていただきます。

［1］企画・特別展

①五月人形と武具展・東京木目込み人形展（千鶴萠会）（５月）〈689 名〉
②特別展「矢沢遺跡発掘調査報告展」（7 月 7 日～ 7 月 31 日）〈711 名〉
③特別展「ミニ平和展」（８月 13 日～８月 31 日）〈586 名〉
④特別展「ひつじ満水から三百年」（９月 1 日～９月 30 日）〈760 名〉
⑤特別展「本学神社をつくった人びとの明治」（11 月3日～ 12 月6日）〈795 名〉
⑥雛人形と美人画展（３月）〈753 名〉
○三校児童・生徒作品展　　○片桐猛氏 写真展「桜 花咲く 花浮かぶ」（３月）
○小正月飾り作り体験教室（１月 11 日）〈子ども 25 名、大人 37 名　合計 62 名〉
○夏休み親子体験教室　第一講座「富本銭レプリカづくり」 第二講座「勾玉づくり」
第三講座「糸取り・飾りひも作り」第四講座「土器づくり」を8月１日（65 名参加）と8月２日（39 名参加）に行う。

［2］「時の駅」講座（16 年次）

①第１講座　７月11日（土）「矢沢遺跡の発掘現場から見えてきたもの」	酒井　幸則氏	50 名
②第２講座　９月５日（土）「ひつじ満水の現場を歩く」	松島　信幸氏	21 名
③第３講座 11月21日（土）「本学神社をつくった人たちの明治」	松上　清志	56 名

［3］古文書研究会

・吉澤章氏を講師に毎月第３木曜日に実施（うち１回は館外；下條村、天龍村での研修）
・２月は、山内尚巳氏に講師を依頼して特別古文書研究会を実施し、町内外から 42 名が参加。

［4］『高森町史』を読む会

・５月に発足し、毎月第４木曜日に約 20 名ほどの参加で実施した。
・１月 30 日に鈴川博氏に講師を依頼し、松岡氏についての講演会を行った。（82 名参加）

［5］委員会の活動

①　運営委員会　資料館の運営について協議。３回開催（他に小正月飾り作り体験教室で臨時に２回開催）
②　調査委員会　「高森町の年中行事」を調査し、５回開催（小正月飾り作り教室にも参加）

［6］委員・職員研修視察

・隔年実施のために実施せず、運営委員と職員とで考古部門リニューアルに向けた2回の研修視察を行う。

［7］学社連携事業

①資料館と学校が連携して授業を実施。　高森南小３～６年（23 学級）、 高森北小３、４、６年（３学級）、高森南小探険クラブ(2回) 高森中1年（1学級）、町外の3小学校（6学級）
②教育課程研究協議会（社会科）で 68 名の教員が富本銭レプリカづくりと資料館見学を行った。
③農業体験ホームスティで来町した県外の中学生が見学のため来館（５グループ）
・町内外の小・中学校の子どもたちが社会科や総合学習等で資料館を積極的に活用してくれた。土器に触れたり、古い生活用具を動かしたりできる体験コーナーは好評であった。また、松岡城址や武陵地１号古墳、惣兵衛堤防等の史跡での現地学習の支援も行った。

［8］入館者数

平成 27 年度の入館者数は 8,171 名（昭和 54 年の開館からは 215,572 名）
・保育園や高森町教職員、社協いきいき倶楽部、牛牧老人クラブ、下市田史談会、中学校の同年会等、町内外の多くの方に展示を見学していただいた。また、高森町史学会、下市田一区自治会、柿の里短歌フォーラム、 育種寺子屋高森分校、 南信州高森 BC 等の団体に施設をご利用いただいた。

［9］その他

・本年も、 天理教高森支部、 建設労連、 高森南小ボランティア委員会の皆さんが奉仕作業を実施してくださり、 内外の環境が整備され感謝している。ホームページがリニューアルされ、情報をリアルタイムに発信できた。

資料館　委員会等の記録

1．運営委員会

〈委　員〉

松 島　悦 男　　下 沢　　貢
林　　マリ子　　松 村　行 彦
座光寺　永子

〔運営委員会の主な活動〕

4月　第１回委員会
本年度の運営についての協議
・企画展、特別展，「時の駅」講座の内容確認
・学社連携事業の促進

6月　考古部門展示替えに向けての研修①
・浅間縄文ミュージアム　尖石縄文考古館

8月　夏休み親子体験教室への協力

9月　第２回委員会
本年度の事業の見返しと来年度の運営について
・小正月飾り作り体験教室について

12 月　考古部門展示替えに向けての研修②
・釈迦堂遺跡博物館　北杜市考古資料館

12 月　展示替えについての臨時検討委員会

1月　第３回委員会
小正月飾り作り体験教室への協力

3月　第４回委員会
本年度事業報告と来年度の方向



展示替えに向けての研修

2．調査委員会

〈委　員〉

（山　吹）　塩澤　　孝、橋都　洋治
（吉　田）　中塚　　悟、中塚　美弘
（下市田）　片桐　　猛、唐木　孝治
　　中村　忠敬
（上市田）　下平　清志
（牛　牧）　加藤　　清
（大島山）　本島　義文
（出　原）　畑中　定喜

〔調査委員会の主な活動〕

調査委員会　（年５回）

「高森町の年中行事」についての調査活動
・各地区の年中行事について、昭和 59 年、60 年度の調査のまとめをもとに聞き取り調査等を行い、執筆分担を決めた。
・子どもたちに向け、写真やイラスト、図を用いて読みやすいものとする。
・28 年度は分担執筆期間、29 年度末刊行予定である。

3．古文書研究会

〈組　織〉

会　長　手塚　勝昭（吉　田）
副会長　本島　恭則（吉　田）
会　計　鈴木　信孝（下市田）
監　事　松村　　一（下市田）
講　師　吉澤　　章（飯田市）
顧　問　福島　壽子（下市田）
　　原　　次郎（下市田）
　　小林　正人（牛　牧）
幹　事　松上　清志、横井　みつ子
会　員　34 名（うち 12 名は町外の会員）



講師の吉澤 章さん

〔活　動〕

○定例会　（毎月第３木曜日）

新たに吉澤章さんを講師に迎え、古文書解読の基本を押さえながら、関川家文書をはじめ郷土の古文書を読み研修した。館外研修は下條村、天龍村坂部へ出かけた。

○特別研究会

山内尚巳さんを特別講師にお迎えして、幕末期の上市田宿にかかわる古文書を読み、研究を

充実の「時の駅」講座

第 16 回目を迎えた「時の駅」講座。本年度も三つの講座を行うことができました。第１講座は『矢沢遺跡の発掘調査から見えてきたもの』（酒井幸則さん）、 第２講座は『ひつじ満水の現場を歩く』（松島信幸さん）、そして第３講座が『本学神社をつくった人たちの明治』（本館館長 松上清志）と、それぞれに多くの皆さんに聴講していただき、充実した講座になりました。

第1講座『矢沢遺跡の発掘調査から見えてきたもの』

7月 11 日　50 名受講
講師：「時の旅人」代表
酒井 幸則 氏

矢沢遺跡は、北部火葬場「五稜の森」建設に先立ち平成 25 年に発掘調査され、縄文時代早期から弥生時代、平安時代の遺跡であることが確認されました。 出土遺物や遺構から当時の矢沢の人々の「祈り」を中心にした生活の様子などを、 豊富なスライドでわかりやすくお話しいただき、 太古の人々の精神生活等を学ぶことができた貴重な講座でした。



講師　酒井幸則さん


第１講座の様子

第2講座『ひつじ満水の現場を歩く』

９月５日　21 名受講
講師：理学博士
松島 信幸 氏

今年は正徳5年の「ひつじ満水」から三百年の年に当たります。 高森町内には「出砂原の大石」「鬼ノ手公園の大石」をはじめとして、その時の痕跡がいくつも残されていますが、 今講座では一日かけて大島川沿いの痕跡を訪ね、 座学では味わうことができない詳しいお話を現地で伺いました。 いつ起こるかわからない大災害に対する心構えも学ぶことができた有意義な講座でした。


講師　松島信幸さん


ひょうたん堤を見る

第3講座『本学神社をつくった人たちの明治』

11月21日　56名受講
講師：本資料館館長
松上 清志

本学神社は慶応3年（1867)3月、山吹を中心とした平田篤胤没後門人有志によって建てられた国学四大人を祀る神社ですが、世直しの思想を持った彼らは、新しい明治の世の中になってどのように生きたのでしょうか。座光寺盈太郎、片桐千里、今村信行、北原稲雄、今村真幸、松尾千振らの功績をたどってみました。(特別展に合わせて)



第３講座の様子



特別展を見る参加者

「高森町史を読む会」発足 ***特別講演会***

1月30日　82名参加
飯田市美術博物館
鈴川 博 氏

「松岡氏の伝承とその素姓 ～古代を繋ぐ中世の松岡氏～」

今年度、新たに「高森町史を読む会」を発足させました。高森町の歴史を学ぶ上での基本資料が「高森町史上・下巻3冊」です。今年度は町史をもとにして「松岡氏と松岡城」という冊子をつくったので、先ずは「松岡氏」にかかわる章を読み合せていこうと考え進めてきました。そのまとめとして鈴川博さんを招いて講演会を行いました。

鈴川さんは、松岡氏に関する史資料の少ない中、松岡氏の系譜、安養寺と松源寺にまつわる松岡氏などについて詳しくお話しいただき大変有意義な講演会となりました。

高森町史を読む会 組織
会長：近藤昭弘　副会長：羽生宏敬
会計：横井みつ子　監事：片桐 猛
会員：30 名



特別講演会の様子



講師　鈴川　博さん

企画展

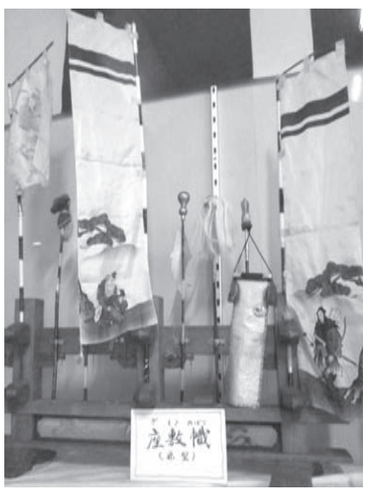


平成 27 年度 企画・特別展

五月人形と武具＆東京木目込み人形



座敷幟



座敷幟

５月１日～５月 31 日
入館者　689 名

５月の節句に合わせ、各種の五月人形、座敷幟飾り、甲冑、刀剣の展示を行いました。あわせて千鶴萠会の皆さんが今年も創作木目込み人形を飾っていただき、多くの皆さんに鑑賞していただきました。



木目込み人形



片桐家甲冑

特別展

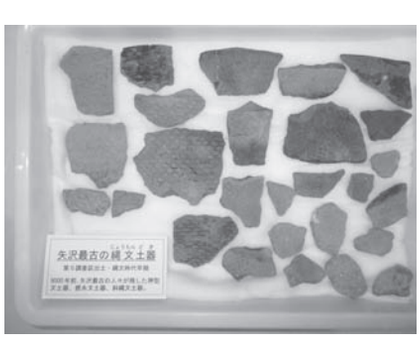


矢沢遺跡発掘調査報告展

７月７日～７月 31 日　入館者　711 名

時の駅講座に合わせての特別展です。縄文時代早期、前期～後期の土器、石器などの出土遺物を中心に、敷石遺構や弥生時代の小規模住居址など写真や解説パネルを用いて、矢沢遺跡の発掘調査結果を展示しました。古代人の精神生活がよくわかる展示となりました。







ミニ平和展　戦後70年　戦争一色であった生活を振り返る

８月13日～８月31 日　　入館者　586 名

戦後 70 年の節目に合わせ、戦地ではない内地の人々の戦争に焦点を当てた展示を行いました。防空頭巾、食糧配給券、千人針や武運長久の日章旗寄せ書き、学校の様子など「生活」「祈り」「教育」の視点から戦争をとらえて、改めて平和の大切さを考える一助となりました。



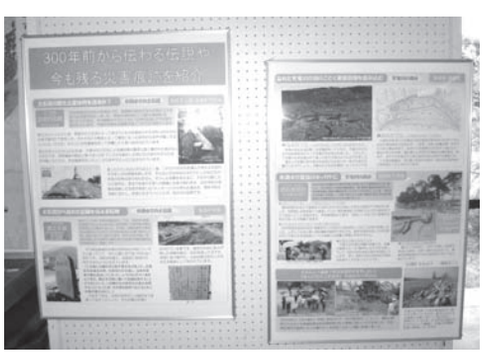


特別展 ひつじ満水から三百年

9月1日～9月30日
入館者　760 名

時の駅講座に合わせての特別展です。「ひつじ満水」の災害の様子や痕跡を、 写真やパネルを使って地区ごとにわかりやすく展示しました。 また、片桐家文書に残る座光寺為勝の災害記録や領民の救済、 藩政立て直し、復旧対策対応の様子の記録なども展示しました。
ロビーでは関連 DVD の映像展示も行いました。











特別展 本学神社をつくった人たちの明治

11月３日～12月６日　　入館者　795 名

時の駅講座に合わせての展示です。創建当時の本学神社の様子とその時代背景を踏まえ、新しい世の中を願った座光寺盈太郎、片桐千里、今村信行、北原稲雄、今村真幸、松尾千振らの功績をたどった展示です。それぞれの生き方を観ていただきました。







企画展

ひな人形と美人画展

３月１日～４月３日　入館者　753 名

恒例の企画展ですが、今年は埼玉県入間市にお住いの方からご寄贈いただいた内裏雛と随身雛の６点を展示しました。上市田ご出身の方のご家族が大切に保管されていたもので、久しぶりの里帰りとなりました。美人画も傑作が並びました。



里帰り雛



押し絵雛



美人画展



保育園児も見学

町民ギャラリー展示



高森南・北小・中学校の児童生徒の皆さんの作品展や、特別展、ミニ平和展、そして下市田の片桐猛さん「桜の写真展」を行いました。町民の皆さんのご利用を歓迎いたします。



北小児童作品展



南小児童作品展



桜写真展



中学生作品展

学校・地域との連携

利用していただいた学校は、高森南小・北小の３，４，６年生、南小探険クラブ、高森中１年生、松尾小学校３年生、上郷小学校４年生、飯田養護学校５年生です。また、デイサービスに通われているお年寄りに「昔の古い道具」を観ていただく事業も行いました。



市田柿の学習（4年生）



本物の土器に触れる（6年生）



昔の道具を見るお年寄り



足踏みミシン（3年生）

夏休み親子体験教室 小正月飾りづくり体験教室 大盛況!

参加者：夏休み　104人　小正月飾り　62 人

すっかり定着した親子体験教室。８月１日は「富本銭レプリカ作り」「勾玉作り」、２日は「糸取り・飾りひも作り」「土器づくり」です。「土器づくり」の講座では、10 月に野焼きを行いました。

1月 11 日に行った五穀豊穣を願った小正月飾りづくりでは、運営委員・調査委員さんのご協力を得て、見事な小正月飾りができました。お餅つきも大好評でした。


おもちつき


土器の野焼き


土器づくり


繭から糸とり


富本銭レプリカづくり


もち花づくり


勾玉づくり


小正月飾りのお話を聞く

ご活用を！

資料館ホームページリニューアル

詳細な情報をタイムリーに、そして貴重な資料を身近にしてほしいと願い、従来のホームページを一新しました。資料館所蔵の資料の検索、イベントや講座の情報、資料館の日常などのブログ等を分かりやすく発信しています。また、スマートフォンからもアクセスできます。これからもさらに充実したものにしていきます。

ホームページアドレスは、http://takamori-tokinoeki.com です。「資料館時の駅」でも検索できます。

「古文書研究会」「高森町史を読む会」にご参加を！
月１回の例会を行っています。いつでも募集していますので、資料館へお尋ねください。

研究調査報告

「本学神社をつくった人たちの明治 ～伊那谷に夜明けは来たか～」

館長　松上　清志

はじめに

今から約 150 年前の慶応 3 年（1867 ）に、山吹の平田国学者たちが中心になって本学神社が創建された。当初は本学霊社と名付けられ、下の絵のように玉垣に囲まれて神殿が二つある神社で、国学の四大人※①を祀るものとしては全国的にも稀有なものであった。



「本学神社図」国立歴史民俗博物館 所蔵

特質すべき、活発な学習活動を繰り広げ、本学神社を創建した人たちのエネルギーは、翌年から始まる明治の新しい世の中でどのような方向に向かったのだろう、ということをここでは探ってみたい。

１、戊辰戦争と伊那谷

慶応４年・明治元年（1868 ）から翌年にかけて行われた新政府軍と旧幕府軍との戦いである戊辰戦争に、山吹を中心にした平田国学門人たちは、新政府軍を支持して積極的に参加した。伊那谷を通った官軍としては「 甲州鎮撫高松隊」と相楽総三の「官軍赤報隊」がある。山吹の旗本座光寺家では、赤報隊にはあまり関わらないが、高松隊には国学門人であった今村松太郎（後の信行（のぶみち））※②を参加させ、高松隊に帰京命令が下ると、彼は隊長を京都まで送り届けている。

一方、岩倉具定を総督とする東山道鎮撫軍は、木曾の中山道を通って江戸に向かった。座光寺村の平田国学門人北原稲雄※③や伴野村の松尾為誠（ためよし）※④は、中津川へ駆けつけて東山道鎮撫軍を諏訪まで案内している。また、山吹藩は座光寺盈太郎（えいたろう）※⑤を中心にして 60 人が先鋒嚮導隊として諏訪から東山道鎮撫軍に参加した。この隊は忍城開城や上野の彰義隊の戦



維新従軍生存の士（『山吹藩史料』より、写真は中平福次氏提供）

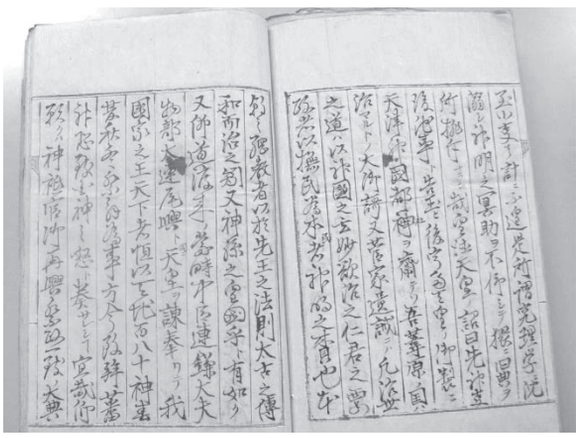
いなどに功があったと云われている。また、北原稲雄や松尾多勢子※⑥の長男たちも奥羽鎮撫軍に参加している。東北での戦いは負け戦さもあり、悲惨な戦いもあった。辛い戦いに加わった彼らには、新たな世の中に対する思い、期待があったからこそ、それを乗り越えることができたとも云える。

２、平田国学者の挫折

明治 4 年（1871） 攘夷派の公卿、愛宕通旭（おたぎみちてる）と外山光輔が明治政府の転覆を謀ったクーデター未遂事件、いわゆる二卿事件が起こった。339 名が逮捕され「 安政以来の大獄 」と云われている。平田国学者や復古神道関係者も予防拘禁的に捕えられている。その中には伊那谷と関わりがある者たちもいる。足利三代梟首事件に関わって伊那谷に逃れ、隠れ住んだ角田忠行、伊那県大参事の時に、相楽総三の墓を建てることに尽力した落合直亮、伊那谷や中津川の平田門人との交流が深かった京都の豪商 池村久兵衛らも捕えられている。

その後、明治政府は廃藩置県（明治４）、太陽暦採用（明治５）徴兵令公布、キリスト教禁令の撤廃（明治６）というように矢継ぎ早に改革を行っていく。このような政府の政策に対して、明治 7 年（1874 ） 北原稲雄は左院宛てに建白書を出している。この建白書の骨子※⑦は、①洋風

が行われ、皇国固有の大道が頽廃している、②神祇官再興、祭政一致の大典を回復する、③福沢諭吉らの洋学の弊を追徴し、神国の風土に応ずるものにする、というようなものであった。



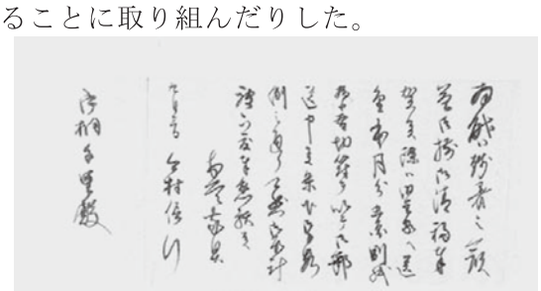
北原稲雄の左院宛ての建白書（中津川市中山道歴史資料館蔵）

この考えは、平田国学門人の誰もが懐いていた思いであり、願っていた世の中の姿であっただろう。

３、国づくりに参加した人たち

本学神社創立祭典に参加した人たちの中で、自ら新政府の官吏となり、国づくりに参加した平田国学門人もいた。山吹藩士として高松隊に参加した今村信行は、その後、東京に出て裁判官への道をめざした。甲府裁判所や名古屋裁判所の創設に従事した後、明治 10 年判事に任じられて、東京上等裁判所では適正な判決で名判官の名をほしままにする。その後、わが国初の「民事訴訟法」の法案を起草するなどして、明治 42 年（1909）大審院判事在職のまま七十歳の生涯を閉じている。

国づくりに直接関わった今村信行が絶えず気にかけていたのは、生まれ故郷山吹のことであり、父母のこと、主家であった座光寺家のことであったという。その山吹の地で地域づくりに取り組んだのは、片桐千里※⑧であった。早逝した父の春一や兄の跡を継いで、学校校舎建設問題に苦悩したり、村長として村のまとまりをつけることに取り組んだりした。



今村信行から片桐千里に宛てた手紙（当資料館蔵）

一方、左院へ建白書を出した北原稲雄は、飯島に伊那県庁ができた明治 2 年に役人になり、明治 4 年伊那県から筑摩県になると、筑摩県の役人になり松本に移住する。筑摩県がなくなった後は役人をやめて松本開産社の社長になる。このように、北原稲雄は建白書で明治政府の政策を批判しながらも役人として伊那県や筑摩県の県政に携わった。

この稲雄の弟であり、平田篤胤没後門人であった今村豊三郎※⑨（真幸）は、岐阜県や長野県の土木課に勤めて、飯田町のめがね橋（長姫橋）の設計に関わるなど土木関係で力を発揮した。また、松尾多勢子の孫、松尾千振※⑩は多勢子と一緒に東京へ行き、司法省に出仕するが、すぐ故郷に帰ってしまう。その間の事情は不明だ。このように、国づくりに力を発揮した人とうまく発揮できなかった人がいたわけである。

４、社会改革運動や社会事業に向かった人たち

明治 6 年（1873）地租改正条例が公布されると、筑摩県伊那郡の地租の不平等さが問題になり、明治 8 年から地租軽減運動が起こっている。この運動は地道な活動を続け、明治 13 年には嘆願が認められる。その同じ年に松本で松沢求策を中心にして国会開設を求める政治結社「奨匡社」が結成され、社員名簿に下伊那からは 39 名が記され、特に、山吹地区が入った里見村からは 15 名が加わっており、政治意識の高さを示している。加えて、明治 15 年、地租軽減運動の中心人物森多平が株主を募って「深山自由新聞」を発行する。この新聞は、自由民権運動を広めるための新聞であったが、座光寺盈太郎や片桐千里などを含めて山吹村からは 9 名が株主として名を連ねている。これらの運動からは、平田国学を学習し、本学神社を創建した人々の政治意識の高さがうかがい知れる。

ところが、深山自由新聞の発行と同じ時期に愛国正理社という貧民救済を目的に飯田に政治結社ができるが、この社員には地主層の人々は参加してない。つまり、社会改革の運動が階層によって分かれていったとも云える。

時代は進み、明治 32 年（1899）大日本実行会が成立する。この実行会は、富士山信仰の一派不二道から始まり、神道実行教となり、その後、教育勅語を実践目標とする団体として設立された。地主層を中心にした運動体であり、土木事業などの社会事業も重視した。

実行会の一員である神稲村の松尾千振は、県

会議員になったりするが、その情熱を伴野堤防づくりにかける。最初につくった堤防は流されてしまい、伴野の人たちは諦める。ところが、千振は一人になっても諦めないで私財を投げ打って取り組み、その完成を見ない前に倒れて亡くなる。伴野の人たちは千振の偉業を讃えて堤防脇に碑を建て、その碑が今も残っている。



伴野堤防脇にある「松尾千振君頌徳碑」

土木事業に力を発揮した今村真幸は、最晩年の明治 39 年に日本社会党に入党し、「細民救養建白書」を作成した。その建白書では小作層への選挙権を与える、赤貧者を調査せよ、日露戦争での遺族を救済せよ、というような具体策を出している。この今村真幸は、平田国学門人が幕末に持った世直しの思想を最後まで持ち続けた人物だったのではないだろうか。

まとめにかえて

明治の新しい世の中になって、激しく動いた激動の世の中になったことは確かだが、伊那谷の平田国学門人たちが思い描いた世の中とはならなかったのではないか。そういう点では、伊那谷に夜明けは来なかった、「夜明け前」で終わってしまったのかもしれない。もちろん、本学神社の創立に参加した人々は、明治の激動する世の中で、自分の持ち場を生かして、周りの人のために精一杯生きたことと、地主層のネットワーク・絆を生かした活動であった、という 2 点は確かなことである。

※①国学という学問を深めた 4 人の学者である荷田春満、賀茂真淵、本尾宣長、平田篤胤
※②座光寺氏の家臣今村文吾の長男、没後門人
※③水戸浪士に間道通過を薦めた中心人物
※④松尾多勢子の三男、分家し酒造業を営む
※⑤山吹村の座光寺家 13 代当主　没後門人
※⑥勤皇の志を持って幕末の京都に出て活躍
※⑦宮地正人著「歴史のなかの『夜明け前』」より
※⑧座光寺氏の家老片桐春一の二男、没後門人
※⑨北原稲雄の弟で、今村家を嗣ぐ。没後門人
※⑩松尾多勢子の孫、本学神社創立祭典に参加。

✳✳✳ 平成27年度の記録 ✳✳✳

		利　用　団　体　名　称　と　人　数
4月	町内	高森町史学会総会及び講演会（30）　天理教奉仕作業（23）　古文書研究会（20） 東京木目込み人形千鶴萠会（15）　資料館調査委員会（11）　美人画教室（８） 資料館運営委員会（５）高森南小６年生（123）　史学会会計監査（５） 松岡氏実行委員会（５）高森ベースボールの会（21）　日赤奉仕団淡竹の会（10） 町史学会幹事会（20）
5月	町内	愛護会（３）　古文書研究会（26）　一区おもしろ科学教室（52） 高森町史を読む会（25）　資料館活用委員会（９）　高森南小６年館外授業（119）
	町外	豊丘村史学会（53）　ホームステイ（14）



天理教の皆さんボランティア作業　4月



刀の手入れ5月



蚕の飼育 6月

		利　用　団　体　名　称　と　人　数
6月	町内	資料館調査委員会（12） 木目込み人形（14） 高森町史学会（16） 町文化財を巡る会（28） 古文書研究会（27） 高森南小ボランティア（18） 食改協議会（16） 高森町史を読む会（17） 役場研修生見学（7） 柿の里短歌フォーラム（71） 高森南小クラブ（38）
	町外	藤村文学を楽しむ会（16） ホームステイ（16）
7月	町内	文化財調査委員会（8） 時の駅講座（50） 高森少年野球（40） 社協いきいき倶楽部（18） 高森町史学会幹事会（18） BUNKAXILE 打合せ会（7） 文化財保全会議打合せ（6） 高森町史を読む会（18） 高森小中学校新任職員研修会（24） 町史学会史跡巡り（31） 社協いきいき（99） 資料館活用委員会（6）
	町外	スワニミズム（3） デイサービスひなたぼっこ（10） 下伊那農業高校（3）
8月	町内	夏休み親子体験教室2日（84） 北部保護司会（4） 古文書研究会（28） 調理場説明会（20） 高森町史学会幹事会（15） 高森南小学校3年1組（28） 高森町史を読む会（15） 総務民生委員会（7） 平和移動展（110） ケーブルテレビ CM 撮影（45）
	町外	濃尾古城探訪の会（25）
9月	町内	牛牧老人クラブ（38） 高森南小学校クラブ1回目（40） 時の駅講座（21） 民俗芸能（25） 古文書研究会（25） 文化財保護保全の会（5） 高森南小学校　探険クラブ2回目（40） 資料館運営員会（8） 古文書研究会（25） 文化財調査委員会（8） 柿渋の会（9） 町職員平和学習会（49） 高森町史を読む会（18） 育種寺子屋高森分校公開授業（67）
	町外	SBC 信越放送（3）
10月	町内	北部保護司会（15） 資料館調査委員会（10） 水墨画の会（5） 高森南小学校4年2組（36） 吉田保育園（40） ふるさと巡り（9） 高森南小学校4年1組（35） 高森中学校1年2組（29） 高森町史を読む会（18） 土器野焼き（25） クイズラリー（20） 高森南小学校（31）
	町外	伍和小学校同窓会（7） 教育課程小社会科（68） 下伊那地方事務所（5） 民俗芸能団体事務局（16） シニア大学（19） 飯田養護学校（16）
11月	町内	高森シニア大学（22） 飯伊短歌会（6） 高森南小学校4年1組（32） 山吹区役員（4） 出早神社総代（5） 下市田史談会（13） 古文書研究会（24） 第3回時の駅講座（56） 吉田南地区ふるさと巡り（33） 史学会幹事会（11） 高森町史を読む会（18） 水生会（4）
	町外	伊賀良公民館かさまつ大学（15） 御前崎市会議員（16） 文化財保護保全の会（47） てんてんゴーしぶ川（31） ミツカン水のセンター（4）
12月	町内	町史学会幹事会（14） 高森南小学校3年3組（29） 臨時運営委員会（7） 高森南小学校3年4組（26） 高森南小学校3年1組（30） 高森南小学校3年2組（31） 古文書研究会（19）


為真甲冑出陣 12月


高森町史を読む会 6月


南小の皆さん花壇作業 6月


大正月飾り 12月

		利 用 団 体 名 称 と 人 数
1月	町内	小正月飾り体験教室 (62)　古文書研究会 (24)　史学会幹事会 (12) 町史を読む会講演会 (82)
	町外	神戸市北区戦没者遺族会 (47)　松尾小学校担任 (4)
2月	町内	高森南小学校3年生出前授業 (116)　高森北小4年生 (30)　資料館活用委員会 (10) 高森北小3年生 (23)　古文書特別研究会 (42)　高森町史学会役員会 (4) 松尾小学校3年生 (12)　美人画展示 (11)　備品監査 (6)　高森町史を読む会 (21) 野菜づくり教室 (28)　高森少年野球 (40)　BNKAZAIL 打合せ (3)
3月	町内	資料館運営委員会 (6)　高森北小6年生 (26)　吉田保育園年少組 (23) 下市田保育園 (94)



山内尚巳さんによる古文書特別研究会2月



惣兵衛堤防見学(4年生) 2月

入館者数：平成 27 年度及び昭和 54 年 11 月の開館以降の累計

★平成 27 年度	8,171 名 (町内	6,752 名	町外　1,419 名)
★開館以降の累計	215,572 名 (町内	170,402 名	町外 45,170 名)

平成 27 年度　資料寄贈者御芳名

❖書籍・刊行物 (主なもの)　(敬称略)

品　　名	数量	氏　　名	住 所
伊那思想史 (稿)	1	塩沢栄三	飯田市
戦国天龍	1	鎌倉正之	飯田市
天竜川流域の暮らしと文化(上･下)	1	古厩　修	飯田市
秋葉街道	1	飯田市教育委員会	飯田市
有線のあゆみ	1	高森町有線放送協議会	高森町
萩の郷	1	下市田区	高森町
飯島町北町の歴史	1	飯島　紘	飯島町
伊那の御祭神　その他	81	林　登美人	飯田市

❖民俗資料・その他　(敬称略)

品　　名	数量	氏　　名	住 所
絵画 2 点「爽晨の参道」「霧晴る」	1	木村　宗人	吉田
高森町地籍図その 1 ～ 4	1	唐沢　哲男	下市田
高森町古文書目録その 1 ～ 5	1	唐沢　哲男	下市田
『高森百年の写真史』	1	唐沢　哲男	下市田
雛人形 3 セット 6 体	1	井出　裕香	埼玉県入間市
棚田泰生「納沙布」の一部	1	各務　尚之	名古屋市緑区
成田青畔氏作品 2 点「瑠璃幻影(動)」「瑠璃幻影(静)」	1	成田夕起子	山吹
三国花火の筒	1	吉田区煙火保存会	吉田

編集後記

この一年間、多くの皆さんが資料館に足を運んでいただいたことに感謝しつつ、館報第 36 号をお届けします。

ご覧いただいたように、資料館では多くの事業を行ってきましたが、今年度からホームページもリニューアルし、館の情報をリアルにお伝えできるようにしてまいりました。この館報と合わせてみていただくことで、資料館をより身近なものと感じていただければ幸いです。(主事：芦部公一)